

M-GTA 研究会 Newsletter no. 12

編集・発行：M-GTA 研究会事務局（自治医科大学看護学部水戸研究室）

メーリングリストのアドレス：grounded@ml.rikkyo.ne.jp

世話人：岡田加奈子、小倉啓子、小嶋章吾、斉藤清二、佐川佳南枝、林葉子、水戸美津子、福島哲夫、坂本智代枝、木下康仁

第 34 回 研究会の報告

【日時】 2006 年 01 月 28 日(土) 13:00～17:40

【場所】 立教大学（池袋キャンパス）太刀川記念館 3 階、多目的ホール

【参加者 52 名】

M-GTA 研究会会員 40 名（敬称略 五十音順）

阿部正子（新潟県立看護大学）・阿部紗香（茨城大学大学院）・有本梓（東京大学）・安藤悦子（長崎大学）・市江和子（日本赤十字豊田看護大学）・鶴沢京子（千葉県立一宮商業高校）・大島寛子・奥野由美子（日本赤十字九州国際看護大学）・小倉啓子（ヤマザキ動物看護短大）・亀山直子（自治医科大学）・北岡英子（神奈川県立保健福祉大学）・木下康仁（立教大学）・功刀たみえ（桜美林大学大学院）・小松良子（筑波大学大学院）・坂本智代枝（大正大学）・佐川佳南枝（西川病院）・塩谷久子（広島国際大学）・寫末憲子（埼玉県立大学）・標美奈子（慶應義塾大学）・高木初子（自治医科大学）・塚原節子（富山大学）・徳永あかね（神田外語大学）・都丸けい子（筑波大学大学院）・長住達樹（国際医療福祉大学）・新鞍真理子（富山大学）・林裕栄（埼玉県立大学）・原島博（ルーテル学院大学）・樋口香織（名古屋大学）・福島哲夫（大妻女子大学）・藤田みさお（東京大学）・藤丸千尋（久留米大学）・古屋昌美（山梨県立看護大学大学院）・堀内みね子（神田外語大学）・堀越敦子・升井恵美（専修大学大学院）・松繁卓哉（立教大学大学院）・松戸広予（筑波大学大学院）・武蔵由佳（都留文科大学）・山川裕子（佐賀大学）・渡辺千枝子（松本短期大学）

西日本 M-GTA 研究会会員 1 名（敬称略）

長崎和則（川崎医療福祉大学）

見学者 11 名（敬称略）

倉石真理（富山大学大学院）・杉田穂子（立教女子短大）・高橋三江子（駒澤大学大学院）・中山佳子（早稲田大学大学院）・古市由美子（お茶の水女子大学大学院）・三輪久美子（日本女子大学大学院）・三輪恵里（富山大学大学院）・森本淳子・山下康久（上智大学大学院）・山中愛子（名古屋大学大学院）・四十竹美千代（富山大学大学院）

【次回の研究会のお知らせ】

現在、調整中です。決定したらお知らせします。

~~~~~

## 【研究報告 1】

在日外国人の生活支援に従事する母語通訳・相談員等の役割遂行プロセスの展開

ルーテル学院大学  
総合人間学部社会福祉学科  
原島 博

### I 発表要旨

#### 1. 研究テーマ

医療、労働、教育をはじめとする外国人住民の生活全般にわたる課題に医療通訳、母語通訳、日本語指導協力者などという立場で行政や民間機関で働く母語通訳・相談員に焦点をあて、彼らに関わる仕事上の日本人及び相談者としての外国人との相互作用のなかで、どのような役割を果たし、また、どのような課題に直面しているかを明らかにする。

#### 2. M-GTA に適した研究であるかどうか

母語通訳・相談員の業務は、外国人相談者との相互作用関係のなかで、生活支援を行うヒューマンサービスである。

#### 3. 現象特性

定住化傾向にある外国人の生活上生じているニーズに対処している母語通訳・相談員の役割遂行。

#### 4. 分析テーマへの絞込み

多様な相談内容に対応するなかで、来談者との援助関係のなかで生じる母語通訳・相談員の役割プロセス。

#### 5. データの収集と範囲

K 県の県域及び市町村域の公的もしくは民間の諸機関において母語通訳・相談業務に従事する 10 人。

#### 6. 分析焦点者の設定

K 県下において外国人相談場面で母語通訳・相談員として従事する母語話者 (native speakers)。

#### 7. 分析ワークシート

概念名 3 「認知されにくい母国語通訳及び相談員の存在」を取り上げ、ヴァリエーション、対極例を説明した。

#### 8. 結果図

結果図を示しながらストーリーラインの説明を行った。

以下省略。

## II 質疑・コメントなど

### <研究テーマ>

研究テーマの説明だけでは、どのようなプロセスを明らかにしようとしているのか理解できない。「どのような役割を果たし、どのような課題に直面しているのか」を明らかにするには、役割遂行が上手くできた場合と上手くできなかった場合の例をあげてそれぞれ要因を整理する必要があるのではないか。

### <分析テーマの絞込み>

- ・外国人として母語通訳・相談員として、日本人とは別のバリアがあって役割を遂行できないという問題意識があったように思えるが、それがどのように分析の過程で明らかになったのか明確ではない。
- ・概念になったものとならなかったものが一緒に出されているので、非常に分かりにくい。さらに、概念はもっと抽象化／簡潔なものにしたほうがよいのではないか。

### <分析ワークシート>

- ・概念数が8つ上げられているが、少ない。今ある材料を使ってどういうことを明らかにできるかに戻って分析テーマを再検討する必要がある。
- ・対極例とは、たとえば、母語通訳・相談員が「対応できた」ケースと「対応できなかった」ケースを対照的に提示することであるといえる。

### <結果図>

- ・結果図の中にカテゴリー名が出ていないので、概念との関係が明確ではない。
- ・結果図では、分析焦点対象である母語通訳・相談員が相談者などとの人間関係の相互作用をとおして明らかになったことを分析テーマに沿って、概念とカテゴリーで視覚的に理解できるよう作成することが必要であった。

### <ストーリーライン>

- ・ストーリーラインには、問題意識の説明も入っているので、ストーリーラインは、概念とカテゴリーを使って分かりやすくまとめることである。
- ・概念化、カテゴリー化までのプロセスと、その後の結果図までが分断されている。概念を上手く生かして概念を結果図につなげて、ストーリーラインを作っていったらよいのでは。

## III 感想

初めてのM-GTAの研究報告をさせていただき、貴重なコメントをいただきありがとうございます。M-GTAの利用に関しては、M-GTAは限定された範囲内での説明力に優れていることから分析テーマの絞込みの重要性を学ぶことができました。すでに実施したインタビューデータを活用して、もう一度、研究テーマから分析テーマの絞込みを行い、母語通訳・相談員の役割の可能性について明らかにしていきたいと考えています。

## 【研究報告 2】

「在宅精神障害者への訪問看護師の援助認識と援助の特徴」

埼玉県立大学 保健医療福祉学部看護学科 林 裕栄

### I 発表の要旨

在宅精神障害者の在宅生活を維持するために訪問看護師がどのような援助認識でどのような看護実践を行っているのかをまとめた。(29 の概念から 6 個のカテゴリー、1 個のコアカテゴリーを生成した)

一通り分析し、結果図、ストーリーラインまで報告した。

#### ＜研究方法＞

##### 1. 研究参加者について

精神障害者への利用者が過半数を占める 2 カ所の訪問看護ステーションで働く訪問看護師 9 名。

##### 2. データ収集方法

データ収集方法は、①了解の得られた訪問看護師へのインタビュー、②訪問看護ステーション内における参与観察、③訪問看護師との同行訪問による参与観察。

##### 3. 現象特性

###### ＜精神疾患に関すること＞

- ・精神障害は、疾患と生活の両面の障害をもつという特徴がある。
- ・看護師と利用者の対人関係そのものがケアになりうるものである。

###### ＜訪問看護に関すること＞

- ・看護師が個別で行うゆえ、独自の看護ができるという特徴がある。
- ・訪問看護単独で在宅生活は維持できないといわれる。たくさんの地域ケアスタッフによるチームで行うケアである。

##### 4. 分析テーマへの絞込み

看護師はどのような援助認識で利用者への援助を行っているのか。

##### 5. 分析焦点者の設定

訪問看護師

##### 6. 論文執筆前の自己確認

精神科領域の訪問看護は、その全体が十分に明らかになっていない分野である。また精神障害者への援助は個別性の高い援助が要求される。本研究において訪問看護師の援助認識と援助内容等を提示することで、今後精神障害者への訪問看護を行う際の基礎的資料になりうる考える。

### II 質疑応答とコメント

☆現象特性についての質問；

- ① 一人で行く訪問看護なのか？—ほとんどが訪問看護師単独で出かける。
- ②利用者への訪問期間（訪問を受けた年数）は限定しているのか？—特に限定していない。

☆M-GTAでまとめる場合、最初の状況とつぎの状況との変化に関心をもつのだが？

たとえば、入院から退院とかであれば変化がわかりやすいが、この場合は何の変化か？  
援助観の変化か？

——劇的な変化はないように思える。援助関係は淡々とすすんでいるようだ。

☆訪問看護師の認識変化に焦点をあてるということか？

——もともとは、訪問看護全体を表したいと思ったが、M-GTAで分析する場合は、なんらかの動きを表さねばならないと考えた。今回、いろいろな内容が入ってしまったが、今のところ認識を中核にして考えている。分析をしながら自分自身の中心に考えるものが変化してきた感じがある。

☆ACTは在宅生活を1日でも維持することが目標になるが、この場合の対象の限定はどうなっているのか？

——ACTは調査した訪問看護ステーションや関連施設では行っていない。また、研究倫理面等からも研究者が同行訪問できる利用者は慢性期の統合失調症の利用者であった。インタビューの中で出てきた事例も多くが慢性期の人だった。  
慢性期の統合失調症への援助として限定したほうがいいのかもかもしれない。

☆訪問看護を経験している人、病棟で看護を行っていた看護師では認識が異なるのではないか？分析対象者の援助経験を教えてほしい。

——対象者は、少なくとも精神訪問看護2年以上の経験者であり、管理者は20年以上の精神科看護のベテランであった。

○訪問看護の現状を把握したいということも目的として同時にあるので、いろいろなものが混在しているようにも思える。

○看護観、精神訪問看護の確立とすると、理論的サンプリングのところで、精神看護の熟練者とか、逆に援助に困っている看護師へのインタビューをするといいのではないか。

○一口に援助認識といってもいろいろあると思う。

○論文としてのインパクトが弱い。ある程度の経験をしている看護師が対象であれば、このような認識の変化にはならないと考える。理論的比較、たとえば精神科と一般科の比較、入院と在宅などと照らして、この研究との比較をしっかりと特徴を浮き彫りにしないといけない。

### Ⅲ 今後の進行予定

今後は理論的サンプリングとして、補足のためのインタビューを行うことと、文献検討の同時並行で精神訪問看護ならではの部分をはっきりと明示できるように分析を行う。

援助認識と看護援助の部分を再度見直し、関係の検討を行い結果図の修正を行う。  
併せて、論文としてまとめていく。

#### IV 感想

参加者の皆様の貴重なお時間を頂戴し、アドバイスやご質問をいただきました。自分自身が迷っている部分を今回質問や指摘していただいたように感じました。そのため不十分な部分がより明確になったように思います。せっかくのアドバイスを無駄にしないようにいっきに進めていきたいと思います。発表の機会をいただきまして大変ありがとうございました。

~~~~~

【構想発表 1】

構想発表 1

中年期における心理的危機の意味について

桜美林大学大学院人間科学専攻健康心理学専修 功刀^{くぬぎ}たみえ

1. 発表要旨

(1) M-GTA に適した研究であるかどうか

中年期に感じる心理的な危機は、個人の中においてのみ発生するものではなく、周囲との関係の中での社会的相互作用で生じてくると考えられる。また、そこにおける経験や周囲の変化などからの影響は個人によって解釈され、対処に移されるというプロセス性を持っていることから M-GTA に適した研究であると考えた。

(2) 研究テーマ

転職や離職を経験することは結果やきっかけとして心理的危機に影響すると考えられる（先行研究では中年の危機の経験ある男女に対して、そのときに起きた出来事を指摘できるか聞いたところ、21%は仕事の関連であったと答えた）。それまでの就業生活から離れ、新たな道を模索する際にどのような心理的な体験をするのか、そのプロセスを離職し現在大学院で学ぶ大学院生の立場から明らかにする。また特に、中年期における心理的危機（中年期の危機）についての関連について検討する。（危機の定義などは Caplan と Ciernia を参考とした。）

(3) 現象特性

中年期において、それまでの生活を、差し迫った外的な要因が無いにも関わらず、自ら変えようとし職を辞めた。

(4) 分析テーマへの絞込み

今回は、差し迫った外的な要因がないにも関わらず周囲とのかかわりの中で、離職を決め、大学院に入ることを決めた流れにおいて、認識が変化するプロセスについて検討する。

(5) データの収集法と範囲

データの収集法:半構造化面接によるインタビュー、平均 72 分(45 分から 115 分)。

2005 年 7 月～9 月

バーンアウトを考慮に入れ、資料を参照にインタビュー時に検討をした。一人がバーンアウトと考えられ分析の対象からははずすこととした。

範囲: 30 歳以上(先行研究を参考として中年期を 30 歳以降の 60 歳頃までとして設定し検討した)の退職・離職経験のある者で、講義などを通じた協力依頼に承諾の得られた 13 人(男性 5 名・女性 8 名 平均年齢 42.3 歳、平均勤続年数 15.1 年)。

了解を得て録音し、逐語記録を作成。ネガティブな経験を語っていただくこともあるため、質問に答えなくともよいこと、途中で止めてもよいこと、後日、録音した資料を使わないで欲しい旨の依頼に応じることは文章にて明記した。

(6) 分析焦点者の設定

データとして、離職時のいきさつから現在までを本人の主観を元に具体的に語られ、内容が豊富であると判断した。

(7) 分析ワークシート(2 枚を配布、終了後回収)

2. 主な質疑応答

① 中年期の定義について?

→ 配布資料の脚注にて言及。当初の説明の不備であった。

② 分析テーマとして仕事を辞めて大学院に入る流れを分析することでなぜ中年期の心理的な危機の意味を探る手掛かりになるか?

→ 先行研究を受け、離職経験者から心理的な危機について、お話を伺える機会があると考えた。

③ 心理的危機というよりも前向きなキャリアアップといったことはどう扱うか

→ 実際データの中にはそういう方はいるが、心理的な危機という分析からは外そうと考えている。

④ 対象者の絞込みに少し不安を感じる

→ 確かに不安を感じている。しかし、心理的な危機について多角的な検討も必要だと

考えた。

この関連の質問において木下先生からコメントを頂いた。

木下先生からのコメント：心理的危機を探索することの難しさと研究のデザインとの関連で再考を行い、テーマを幅広く設定した方がよい。心理的危機も離職や院進学の流れの中でデータに即した検討を行うこと。ナラティブ系での検討についても候補として推奨できるなどのコメントをいただきました。

- ⑤ 幅広い対象者の検討をする中で定義の検証になってしまうのではないかと

→ならないようにしたい

- ⑥ 対象からバーンアウトを外した理由は？

→外的な要因によらない、内的な危機を対象として分析をする予定だった。(再考)

3. 研究の今後の進め方と感想

構想発表をさせて頂きありがとうございました。ご指摘をうけ、自分自身の偏りに気づくことができました。また、発表後にも文献の紹介などをしていただき、時間をかけて、多くのことを消化していかなければならないことを今は噛み締めています。また、木下先生からのコメントも適切な時期に得ることが出来、一つ一つ進めて行く方向が見えたように実感しています。今後の研究の進め方としましては、幅の広いテーマでデータを分析してゆく方向で再度、構想を検討していくことを主軸におき、分析を進めることだと考えています。多くの方から質問を頂き感謝しております。ありがとうございました。これが、研究報告につながるように努力してゆくつもりです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【構想発表2】

「精神疾患のある母親に対する市町村保健師による子育て支援—複数機関・住民との地域支援ネットワーク構築に着目して」

有本 梓 東京大学大学院医学系研究科 地域看護学分野博士課程

I. 発表要旨

1. M-GTA に適した研究であるかどうか

保健師が、母親および関係機関の職員などと直接的にやり取りをする（社会的相互作用）看護・保健分野（ヒューマンサービス領域）の実践現場での経時的変化および段階（プロセス的性格）を持つ現象に着目しており、適している。

2. 研究テーマ

市町村保健師が、精神疾患があり未就学児を育てている母親を、児童虐待予防の観点か

ら支援したプロセスを明らかにする。特に、複数の機関や地域住民と事例に対応するための協力体制(地域支援ネットワーク)を作る技術に焦点をあてる。

3. 現象特性

地域において、精神疾患があり未就学児を育てている母親は、低収入や家族問題等の生活問題が重複することが多く、虐待発生予防の二次予防(虐待発生の危険をはらむ家族や虐待に至っている家族を早期発見し虐待の発生や進行を防止すること)の観点で、支援が重要な対象である。

市町村保健師は、母子保健の立場から、関係機関から早期に情報を得たり、出産通知票や健診などの母子保健事業を通じて自ら発見したりできる立場にある。継続した個別支援が必要な場合には、家庭訪問などを通じて、継続して直接母子にかかわるほか、保健師だけでは問題が解決できない場合には、地域の関係者・住民と協力して、母親と子どもを支援するための協力体制(地域支援ネットワーク)を築いて、母親の健康や生活の状態が悪化せず、子どもが安全に生活できるように支援する。協力する関係機関および住民は、医療機関(精神科、産科、小児科)、保健所、児童相談所、市町村内の精神福祉担当部署・福祉部署、保育園、民生委員、地域ボランティア等である。かかわりのきっかけは、産院からの連絡、乳幼児健診での把握、母親からの相談等がある。長期的な支援になることが多く、対象者の転出や保健師の異動がない限り、支援は継続される。

4. 分析テーマへの絞込み

市町村保健師が子どもを虐待するリスクが高い母親が虐待をせずに子育てできるように、関係者と協力して地域支援ネットワークをつくるプロセス

5. データの収集法と範囲

半構造的面接調査。首都圏の市区町村に勤務し、以下の条件を満たす事例を支援した経験がある保健師 30 名予定(2005 年 8 月～2006 年 1 月 9 名)。支援事例の選定条件：未就学児を育てている 20 歳以上の母親とその子・家族、児童虐待予防の観点で精神的問題など様々な問題があり個別支援が必要だった、保健師が中心となって他機関・地域住民と協力する必要があった、協力により状況改善や問題解決があった

6. 分析焦点者の設定

精神疾患があり未就学児を育てており児童虐待発生のリスクが高い母親を、複数の機関や住民と協力して支援した経験がある市区町村保健師

7. 分析ワークシート：概念生成例を 1 つ示した。(終了後回収)

II. 質疑および助言

(1) 研究テーマおよび全体の構想について

- ・ 「精神疾患のある・・・母親」とすると、限定的すぎる。精神疾患がある母親全てが虐待を起こすように受けとれる。「精神疾患がある」というのは、虐待のリスクのひとつなのではないか。
→「精神疾患のある」は誤解を招く表現なので避ける。事例の選定条件のとおり、虐待発生予防の観点で支援が必要だった母親とする。
- ・ 問題の関心は、①ネットワークづくりにあるのか、②生後すぐ発見してから終了までの支援経過か→②が中心。ネットワークづくりは手段と考えていた
- ・ テーマにある「子育て支援」は一般的によく使われる言葉だが、「虐待予防支援」とどのように異なるのか？→保健師の虐待予防を意図した支援は幅広く、福祉の担当部署への紹介、家族の問題への対応や家族間の調整なども含まれていたため、広い範囲を示す「子育て支援」という言葉を使った。子育て支援や虐待支援など限定せず、「支援」または「実践内容」としたい。
- ・ 子育てが難しい事例がでてきたときに保健師が自分の職務の範囲を越えて対応できない部分をどのように解決していくのかということでは？保健師の仕事の性質を見出すということでは？保健師が仕事として何をしているかが分析テーマとなるのではないか。
- ・ 虐待の「リスク」の判断は様々で人により幅がある。どんな幅でどのようにリスクととらえているか？と見ていけば、制度を越えた部分の実際に保健師が行っている仕事が出てくるのではないか。

(2) 現象について

- ・ どのような経過をたどるのか？生まれた時から小学校に入るまでにネットワークができて完結するのか？→事例により違いがある。緊急性が高い場合は速やかにネットワークができる。一方、最初は限られたネットワークでかわり、発達経過で新たな問題が生じたことをきっかけにネットワークが拡大する場合もある。

(3) 対象について

- ・ 対象が経験年数3年目の人から20年目の人までということだが、保健師の実践内容、特にネットワークの作り方には経験年数による違いがあるのではないか。→当初は5年以上と限定していたが、若い保健師が母子保健を担う自治体があったため、3年目の対象も含めている。分析対象から除くことも考えている。

III. 感想

貴重な機会を頂きましてありがとうございました。ご指摘を受け、「保健師が虐待発生予防のために何をしているのか？」「保健師は自分では対応できない部分をどのように解決していくのか」という問いの基で、原点に立ち返って研究に取り組んでいきたいと考えており

ます。対象選定と依頼に苦勞し焦る日々でしたが、希望の光が見えた気がしております。
質疑・ご助言につきまして、理解不足な点がございましたら、ご指摘いただければ幸いです。
今後ともご指導宜しくお願い致します。

.....

【編集後記】

- ・ 先日の研究会の報告です。発表者の皆さん、ご協力、ありがとうございました。
- ・ 研究会の最後に、参加された皆さんに当日の研究会の感想とご自身が現在検討中の研究計画について少し話してもらいました。十分な時間はとれませんでした、それぞれのお考えを共有できて、とてもよかったと思いました。M-GTA 研究会の当初からの基本方針であり入会条件にもなっている、いつかは自分の研究構想や研究報告を行い、論文を完成させるという意味確認、研究会はそれをサポートする場であることを改めて思い起こしながら、うかがっていました。
- ・ 学年末の大学事情で今回の研究会は教室ではなく、ちょっと豪華なホールを使わせてもらいました。今後、こうしたことはないと思いますので記念として、当日の様子や雰囲気をお伝えできたらと思ひまして写真を添付させてもらいました。
- ・ 8月に予定している集中(合宿)研究会について、研究会の前に開いている世話人会で相談しました。3グループ程度に分かれ、それぞれに世話人が参加して実際のデータ分析を集中的に行う内容で検討しています。詳細はおって事務局からお知らせします。合わせて、12月はじめに行った久留米大学での公開研究会の報告や、次回の研究会の日時などもお伝えします。

(木下記)